

RC柱最低必要配筋量計算

B	D	全断面積 の0.8%以 上	1.98	2.85	3.88	5.07	6.41	採用配筋	帯筋比 ($p_w=aw/bx$) は0.2% 以上	0.713	1.27	採用配筋
			D16	D19	D22	D25	D29			HooPD10	HooPD13	
50 x	50	20	10.1	7.0	5.2	3.9	3.1	8-D19	0.1	143	254	D10@100
55 x	55	24.2	12.2	8.5	6.2	4.8	3.8	8-D22	0.11	130	231	D10@100
60 x	60	28.8	14.5	10.1	7.4	5.7	4.5	8-D22	0.12	119	212	D10@100
65 x	65	33.8	17.1	11.9	8.7	6.7	5.3	12-D22	0.13	110	195	D10@100
70 x	70	39.2	19.8	13.8	10.1	7.7	6.1	12-D22	0.14	102	181	D10@100
75 x	75	45	22.7	15.8	11.6	8.9	7.0	12-D22	0.15	95	169	D13@100
80 x	80	51.2	25.9	18.0	13.2	10.1	8.0	12-D25	0.16	89	159	D13@100
85 x	85	57.8	29.2	20.3	14.9	11.4	9.0	12-D25	0.17	84	149	D13@100
90 x	90	64.8	32.7	22.7	16.7	12.8	10.1	12-D29	0.18	79	141	D13@100
95 x	95	72.2	36.5	25.3	18.6	14.2	11.3	12-D29	0.19	75	134	D13@100
100 x	100	80	40.4	28.1	20.6	15.8	12.5	16-D29	0.2	71	127	D13@100

構造細則

A. 主筋

- (1) 主筋は、異形鉄筋D13以上、かつ4本以上、帯筋により相互に連結。
- (2) 主筋全断面積はコンクリート全断面積の0.8%以上
- (3) 主筋のあきは25mm以上、かつ異形鉄筋の径(呼び名の数値)の1.5倍以上

B. 帯筋

- (1) 帯筋は、丸損9φ以上または異形鉄筋D10以上。
- (2) 帯筋の間隔は、9φまたはD10を用いる場合は、100mm以下。
- (3) 帯筋比($p_w=aw/bx$)は0.2%以上とする。原則1.2%までとする。
ただし、スパイラル筋または副帯筋を用いる場合は上限値を1.5%としてよい。
- (4) 帯筋の末端は、135°以上に曲げて定着する。
- (5) 柱梁接合部内の帯筋間隔は150mm以下とし、かつ、隣接する帯筋間隔の1.5倍以下とする。

C. かぶり厚さ

30mm以上。ただし、屋外で仕上げなしまたは土に接する部分は40mm以上。